

連合福島「男女平等推進フォーラム 2021」開催す！

★女性活躍推進のためには男性のワーク・ライフバランスの推進が重要★



大越香代子代表幹事のあいさつ

連合は、新たな補強として第4次男女平等参画推進計画プラスを掲げ1年間延長の方針が確認されており、これまでの社会環境や慣例などを見直していくことが重要。連合アクション「気づこう、アイコンシャス・バイアス～真の多様性ある職場を～」の取り組みと連動し、男女平等・男女共同参画がすべての働く方を対象として地域社会・職場の中で広まり深まっていくことを祈念する」と挨拶した。

続いて、連合福島・今野 泰会長は、「コロナ禍は社会・経済に重大なダメージを与え、これから年末にかけ、雇用・労働分野への影響が危惧される。連合福島が取り組んでいる組合員アンケートでも女性のストレスが強いことを示す結果となっている。連合福島は、分析結果を踏まえ行政や経営者団体等への要請・要望等により改善につなげたい。迎える2021春闘も辛く厳しいものが予測されるが、雇用の維持・継続を基本とし、組合員のがんばりや期待に応える取り組みとしなければならない。

次世代育成ということでは、構成組織等からの要望に応え、連合福島として積極的な研鑽・教育などに資する場を早期実現したい。」と挨拶した。

その後、講演では、福島県男女共同参画推進アドバイザーの横田智史氏より、「女性活躍のためのワーク・ライフバランス」と題し、拝聴した。参加者アンケートでは、事例も交えわかりやすい講演で興味・関心が深まったとの反応が大勢を占めた。尚、講演時間が足りなかったとの要望や、コロナ禍で不安や緊張があったとの意見がいくつか提起された。難しい開催環境ではありましたが、参加者の皆様の理解・協力に感謝し、終了報告とする。

連合福島男女平等推進フォーラムは、この度12月12日（土）15時～福島市のパルセいいざかにおいて、構成組織・地区連合から役員並びに若年層や女性層の組合員約130名が参加し開催した。今年は、コロナ禍を受け、広い会場で収容人員の半分の規模でソーシャルディスタンスを確保、事前の検温・消毒の協力を得て感染防止の徹底をはかりながらの対応となった。冒頭、主催者あいさつとして連合福島青年女性委員会・大越香代子代表幹事は、「社会における法改正や環境整備が進む一方で、実態は中々改善が進まず、世界各国の男女格差の大きさを調査した「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」では、日本は世界153カ国のうち、121位、前年よりも11もダウン、G7（主要7ヶ国）のなかで最下位となっている。



講師の横田智史先生